



こどもサポート寄金 創設



「こどもサポート寄金」の主な事業。

上: 恵まれにくい境遇のこどもたちに野外での体験を提供する「ゆうゆうキャンプ」(大阪府立青少年海洋センターで)、左: 交通災害や病気・災害遺児らを招待する「遺児ボウリング大会」、右: 児童養護施設のこどもたちの野外学習「ハチ北林間ホーム」(兵庫県香美町のハチ北高原で)



さまざまな困難を抱えたこどもたちへの支援の窓口として「こどもサポート寄金」を新たに設けました。児童福祉施設で暮らすこどもたち、交通災害遺児、被虐待児らの支援などに充てます。

毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団と毎日新聞社は2011年、東日本大震災で保護者を亡くした生徒や学生を支援する「毎日希望奨学金」を創設し、25年度までに7億2,276万円を延べ2,934人に給付してきました。対象者が大学・大学院を卒業するまで、返還の必要がない月額3万円の給付を継続しますが、皆さまからこ

れまでにお預かりした寄付金で、今後の給付分をまかなえる見通しとなったため、26年3月末をもって寄付の受け付けをいったん休止しました。

毎日新聞大阪社会事業団では阪神大震災時にも希望奨学金制度を実施しています。1995年度から2008年度までの14年間、280人に総額1億4,682万円を支給しました。

これまでのご支援に深く御礼申し上げますとともに、引き続きこどもたちへのサポートを賜りますようお願いいたします。

配食サービス車贈呈事業 兵庫県朝来市の「いくの喜楽苑」に贈呈

本団は兵庫県朝来市の特別養護老人ホーム「いくの喜楽苑」に2025年12月17日、配食サービス車「毎日ふれあい号」1台を寄贈しました。贈呈事業は99年から始まり、今回で38台目となりました＝写真。

同施設は2003年から高齢者らに昼食と夕食を届けるサービスを始め、現在は約50人が登録しています。施設長の瀧本巳紀代さんは「高齢者が増える中、配食サービスの果たす役割が大きくなっている。大切にに使わせてもらいたい」と話していました。



「小児がん 毎日新聞大阪 贈呈」 13団体に贈呈

毎日新聞社と本団の「生きる 小児がん 毎日新聞大阪 贈呈キャンペーン」で寄せられた「小児がん 毎日新聞大阪 贈呈」を贈られた団体の代表者らによる「集い」が2026年3月6日、大阪市北区の毎日新聞大阪本社で開かれ、活動状況などを報告しました。同募金は小児がんの患者や家族の団体などの支援を目的に始めました。25年度は13団体に各70万円、総額910万円が贈られ、集いにはうち12団体の代表者らが参加しました＝写真。これまでの贈呈総額は1億1,795万円となりました（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では4億5,950万円）。贈呈先は次の通り（順不同）。

【愛知県】あいち骨髄バンクを支援する会▽ぶくぶくばるーん▽名古屋小児がん基金▽

愛知こどもホスピスプロジェクト

【福井県】ふくいこどもホスピス

【京都府】京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽京都・がんと生殖医療ネットワーク

【大阪府】日本クリニクラウン協会▽守口ぶどうのいえ▽こどものホスピスプロジェクト（TSURUMIこどもホスピス）▽しぶたね

【香川県】未来ISSEY



歳末たすけあい運動 報告

年末恒例の「歳末たすけあい運動」を実施しました。同運動に連動した「毎日チャリティー美術フェア」は、2025年11月15日から17日、大阪市北区の毎日新聞ビル地下1階のうめだMホールで開催し＝写真＝1,425万円の売り上げがありました。歳末義援金を加えると総額で2,686万円となりました。

フェアの売上金と歳末義援金をもとに児童福祉施設など9団体・施設に歳末慰問金品を贈りました。売上金などは、公募福祉助成金や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童のキャンプなど今後1年間の社会福祉事業の資金としても活用します。



🌸 第55回毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を表彰する第55回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が2025年10月31日、東京都千代田区でありました。

受賞した中田ケンコさん(サンタナ学園校長、滋賀県愛荘町)、特定非営利活動法人やどかりプラス(鹿児島市、芝田淳理事長)、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン(東京都杉並区、高橋潤理事長)の1個人2団体に顕彰額と賞金各100万円が贈られました。



左から、やどかりプラスの河原晶子副理事長、鶴田啓洋副理事長、サンタナ学園の中田ケンコ校長、チャイルド・ファンド・ジャパンの高橋潤理事長、福嶋美佐子副理事長

🌸 公募助成金19団体に贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事業を展開する団体から一般公募で申請を受け付ける公募助成金の選考委員会を、2026年1月23日に開き、次の19団体に総額575万円を贈呈しました。

- 〈公募福祉助成金〉おおさか子どもココロネットワーク(大阪市北区)▽大阪府肢体不自由児者父母の会連合会(同市中央区)▽officeドーナツトーク(同市北区)▽摂食障害よりみち(愛知県小牧市)▽ぼぼんがぼん(大阪府茨木市)▽LOVE EAST(石川県羽咋市)
- ※「児童福祉特別枠」春日みらい塾(高松市)▽子どもの居場所Yu-Ya(大阪市生野区)▽つむぎ(同市城東区)
 - ※「高齢者福祉特別枠」敬愛福祉会(島根県美郷町)▽高槻ライフケア協会(大阪

府高槻市)▽ゆめ伴プロジェクトin門真
実行委員会(大阪府門真市)

〈シンシア基金助成〉日本介助犬協会(愛知県長久手市)▽兵庫介助犬協会(兵庫県西宮市)

〈海外難民救援金助成〉詳細は3面の中段を参照ください

🌸 「海外難民救援金」7団体に200万円を贈呈

2025年度の海外難民救援金は24年度の取材地ウガンダへの継続助成と、公募助成の二つの助成を行い、下記7団体に総額200万円を贈呈しました。

【継続助成】テラ・ルネッサンス▽難民を助ける会(AAR Japan)

【公募助成】アフガニスタン女性支援プロジェクトEJAAD Japan▽こころのケアまごころ▽湘南とアジアの架け橋▽ネパール震災プリタム実行委員会▽モザンビークのいのちをつなぐ会

毎日新聞社と毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団が海外難民救援キャンペーンを始めた1979年以来、これまでに贈呈した救援金は17億4,288万8,344円になりました。

毎日希望奨学金
絵と題字・西原理恵子さん

🌸 **「毎日希望奨学金」5,868万円を給付**

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支援する「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は、2025年3月11日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載しました。5月14日に奨学生選考委員会が開かれ49人に新規の給付が決定しました。継続者と合わせた25年度の奨学生は163人となり、2025年度からは月額支給額を1万円増額し3万円とし、合計5,868万円を支給しました。

施設のこどもに「卒業祝い金」を贈呈

大阪府内の児童福祉施設で暮らし、高校を2026年春に卒業する生徒125人に、2月15日、1人1万円の「卒業祝い金」を贈りました。大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪で開かれた「自立生活技術講習会(SST)」の閉講式の中で贈呈式があり、代表の生徒らに祝い金が手渡されました。

SSTは大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部が主催し、大阪府社会福祉協議会、大阪市児童福祉施設連盟養護部会と本団が後援しています。企業の協力も受け、施設の生徒がビジネスマナーなど自立に必要な知識を約半年かけて学びました。

専門点訳・音訳講習会開催

2025年度の「専門点訳・音訳講習会」(日本ライトハウス情報文化センター、本団主催)が7月8日から11月28日までの間、大阪市西区江戸堀の日本ライトハウス情報文化センターで順次、開かれました。

視覚障害者のための点訳・音訳ボランティアの育成と技術向上を目的にした講習会で、点

訳は「楽譜入門」「東洋医学」の2コース、音訳も「英語」「小説の読み方」「グループリーダースキルアップ」の3コースがあり、141人が参加しました＝写真。

「点字毎日」創刊65周年記念事業として1987年に始まり、今回で38回目。これまでの修了者は2,865人にのぼり、各地の点訳・音訳グループや点字図書館で活躍しています。



ミャンマー地震救援金贈呈報告

2025年3月28日に発生したミャンマー地震では、4月1日から「ミャンマー地震救援金」の受け付けを始めました。本団は、9月30日までに国際連合世界食糧計画WFP協会、難民を助ける会(AAR Japan)、テラ・ルネッサンスの3団体に合計350万円を贈呈しました。

ご寄付の方法

事業団の活動は皆さまからのご寄付で成り立っています。クレジットカードもお使いいただけます。スマートフォンなどでQRコードを読み取り、専用サイトでカード番号などの情報を入力してください。領収証の発行はできませんのでご注意ください。

詳細は本団ホームページで。

◆郵便振替は以下へ

①ご希望の用途

- ア. 社会福祉のための募金(一般的な募金)
- イ. こどもサポート寄金
- ウ. 小児がん征圧募金
- エ. シンシア基金
- オ. 海外難民救援金 など

②領収証をご希望の方は「領収証希望」

③お名前などの新聞掲載をご希望の方は「掲載希望」——と明記してください。

【郵便振替】

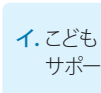
口座番号:00970-9-12891

加入者名:公益財団法人

毎日新聞大阪社会事業団



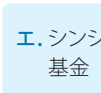
ア. 社会福祉のための募金
(一般的な募金)



イ. こどもサポート寄金



ウ. 小児がん征圧募金



エ. シンシア基金



オ. 海外難民救援金

編集後記 59

- ◆今年から「こどもサポート寄金」の受け付けを開始しました。2019年に入団した私は、施設児童のキャンプや駅伝ロードレース大会、交通災害遺児のボウリング大会などの児童福祉事業に関わっておよそ6年になります。
- ◆そのなかで見かける、こどもと一緒に笑い、時には親のように厳しく接し、まっすぐにこどもと向き合う施設の職員や支援団体のスタッフの姿。こどもにとって温かく見守ってくれる存在がいかに大切で必要なものか、身をもって実感させられます。
- ◆公的支援はもちろんですが、それを補完するように地域や企業、一人ひとりの温かい眼差しで、すべてのこどもたちが未来に希望を抱ける社会になれば、と心から思います。(河)